慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	民俗學に關する新著
Sub Title	
Author	松本, 信廣(Matsumoto, Nobuhiro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1937
Jtitle	史学 Vol.16, No.2 (1937. 6) ,p.120(284)- 120(284)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白錄
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19370600-0120

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

民俗學に關する新著

昨年逝去したサンチーヴの「民俗學手引き」が遺稿として出版された p. Saintyves, Manuel de Folklore. 完結篇でなく更に第二篇が起草せらるべき積りであつたらしいが、然し本書によつて大體氏の企圖してゐた所は窺はれる。民俗學を「文明社會に於ける庶民生活の學」と定義し、文化人類學中に屬せしめ次の如き學的位置を與へてをる。

- 人類學
  - 動物人類學
  - 文化人類學
    - 心理學
    - 社會學又は集團心理學
      - 民族學（Ethnographie）
      - 民俗學（Folklore）

この見地から著者は民俗學の取扱ふ範圍を極めて擴大してしまつてをる。民族學の方が文獻のない未開人の物質的、智識的文化の研究であるのに對し、民俗學の方は文明國土の庶民階級の物質的、智識的文化の研究でありとし物質的生活、精神的生活、社會的生活の三面から之を研究しなければならぬと論じてをる。方法論的に著者の說の妥當は兎に角ヴン・ゲネツプ氏の議論より一層徹底的に考察した意見として注目に價する（松本信廣）。